

平成26年度 野外彫刻鑑賞アートウォーキング

初冬の芸術鑑賞～震生湖・法沢丘陵を歩む～

カメラスケッチ

平成26年12月10日（水）開催

主催：秦野市

協力：秦野市観光ボランティアの会、彫刻愛し隊



【行 程】

参加者16名（一般公募参加者14名・彫刻愛し隊員2名）

震生湖・渋沢丘陵ハイキングコースガイド：高橋雄三、守屋一夫（秦野市観光ボランティアの会）

時 間	内 容
10:00	秦野駅改札前集合・あいさつ
10:00 ~ 10:35	秦野駅南口：彫刻の説明「異石風景」「重力の無い風景」「空の椅子 CHAIR OF SKY」[COSMIC IN HADANO]「風」「雲のある風景」
10:35 ~ 12:00	ウォーキング （秦野駅⇒今泉名水桜公園⇒白笹稻荷神社⇒震生湖）
12:00 ~ 12:30	震生湖で昼食・トイレ休憩
12:30 ~ 14:45	ウォーキング （震生湖⇒栢窪会館⇒喜叟寺⇒國榮稻荷神社⇒渋沢駅南口）
14:45 ~ 15:00	渋沢駅南口：彫刻の説明「幸福を運ぶ風」
15:00	渋沢駅解散

【カメラスケッチ】



秦野駅南口駅前広場に設置されている野外彫刻(5基)を鑑賞



天候に恵まれ、素晴らしいウォーキング日和の中、今泉名水桜公園に到着



白笹稲荷神社にて、神主の説明を受ける



震生湖に到着後、寺田寅彦の俳句を読む



喜叟寺にて一時休憩



渋沢駅到着直前、國榮稲荷神社

【野外彫刻の紹介】

《秦野駅周辺》



「異石風景」 作家：佐藤 尚宏（さとう たかひろ）

～作家のコメント～

整然とした都市空間に、何か別の超然とした姿を現出させたかったです。
荒々しく、繊細 醜くて、美しい こわくて、やさしい
—そしてどこか懐かしい

人の(あるいは生きた物たち)は各々で、自分のかかわりをもつだろう。けれど、
すべてを飲み込んでただ在る
そういうようなものを……

取得経過：水とみどりの彫刻展

設置：平成9年11月

素材：白御影石



「雲のある風景」 作家：村中 保彦（むらなか やすひこ）

～作家のコメント～

現在の私たちは、日々生活に追われており、なかなか安らぎのある時間がもてないのが現状のように思います。

秦野駅を利用する人々が、ふと日常の煩雑さから脱し、夢の世界へ入れる空間になればと願っています。地面上に配されているステンレス板は雲を表しており、地面から立ち上がっている形は雲の上にある桃源郷を表現しています。

取得経過：水とみどりの彫刻展

設置：平成9年11月

素材：ステンレス SUS304



「風」 作家：永廣 隆次（ながひろ たかつぐ）

～作家のコメント～

「風」は配管用継手である 90 度エルボーを切断して作ったものです。通常、ある目的で内部に流体を通すための製品ですが、その内外面を取り外すことで作品としました。

今は流体である風が作品を通り抜ける事でしょう。工業材であるエルボーからその「用」の部分を剥奪してモニュメント(環境彫刻)として再生したのです。

私の作品を見て風を感じていただけたら幸いです。

取得経過：水とみどりの彫刻展

設置：平成 9 年 11 月

素材：耐候性鋼板 塗装



「COSMIC IN HADANO-contour 切り取られた地層」

作家：楠田 信吾（くすだ しんご）

～作家のコメント～

切り取られた地層が宙に浮く。無重力空間による宇宙の出来事。

秦野の地形を等高線に置き換え、その一部分(駅前)を水圧により空中に舞い上げることによって、駅前広場をシンボリックに表現しました。この空中に舞い上がった石塊が街の起爆剤になればと考えます。

取得経過：水とみどりの彫刻展

設置：平成 9 年 11 月

素材：黒御影石 強化ガラス



「CHAIR OF SKY」 作家：今村 巖（いまむら いわお）

～作家のコメント～

ステンレス鏡面磨きの座面に空を反映させ、空にあこがれるように空へ伸びてゆこうとする植物たちをイメージして、この作品を造りました。ゆきかう人々がこの作品にすわったり中を歩いたりすることで、様々な見かた、見えかたができるのでしょ

取得経過：水とみどりの彫刻展

設置：平成 9 年 11 月

素材：ステンレススティール 磁気タイル



「重力のない風景」 作家：斎藤 史門(さいとう しもん)

～制作者のコメント～

弧をえがいた鉄のかたち、勢いよくキューブがはね上がる、そこに軽快なかたちを生まだしています。

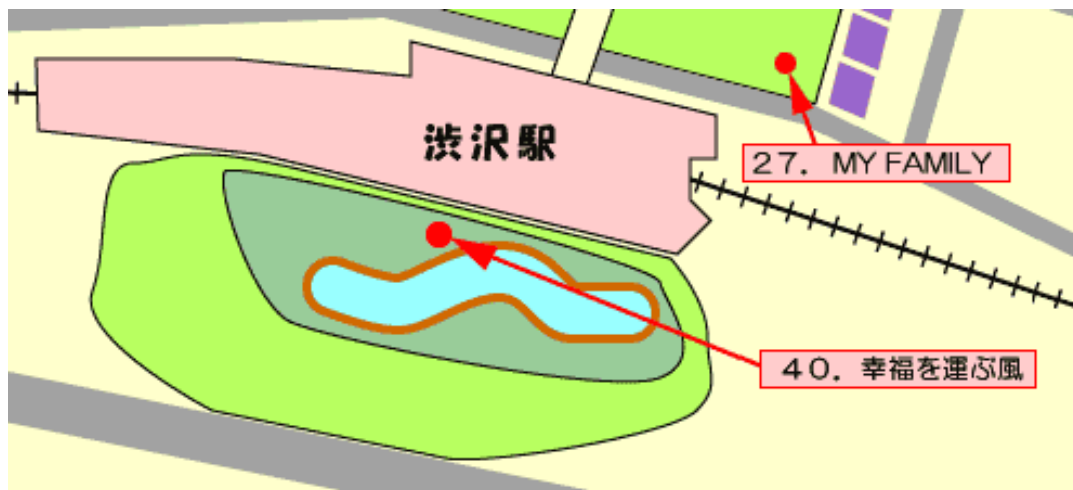
取得経過：水とみどりの彫刻展

設置：平成 9 年 11 月

素材：コールテン鋼



《渋沢駅周辺》



「幸福を運ぶ風」 作家：西巻 一彦(にしまき かずひこ)

～作家のコメント～

行く人、来る人、そして訪れる人、駅は往来する人々のドラマでもあります。

作品は丹沢をイメージし、共生、人と環境をテーマに、この秦野の環境、そこに住む動植物を慈しむ心、未来永劫変わることの無い精神、私の作品が人々の心に木漏れ日の様なあたたかな日を射してくれる事を願っています。

取得経過：野外彫刻設置事業

設置：平成 19 年 3 月

素材：御影石



【見学場所の紹介】

「今泉名水桜公園」

小田急線秦野駅に程近い湧水と桜を楽しむことのできる公園です。公園内には全国名水百選「秦野盆地湧水群」の中でも最大級の湧水量を誇る「今泉湧水池」があります。この湧水は古くから太岳院池とよばれ地域の人々に親しまれてきました。ほぼ一年を通して桜を楽しめるように開花時期の異なる 18 種類もの桜が植えられています。公園の南側にはシンボルツリーとして樹齢 80 年といわれるベニシダレが植えられています。



「白笹稲荷神社」

江戸時代初期は「白笹（しらささ）」の文字を用いていました。1774 年（安永 3 年）に由来を明らかにするため、新たに伏見稲荷を祭って再建されました。

神社のキツネは、農作物の外敵であるネズミを食べてくれるため、春の耕作の始めに田神（たのかみ）として迎えらるる食べ物の神様の使いと考えられていました。



「震生湖」

1923 年（大正 12 年）9 月 1 日の関東大震災でこの付近は幅約 200m にわたって陥没し市木沢（いちぎさわ）がせき止められ、震生湖は誕生しました。ゴルフ練習場北側の絶壁は当時の崩壊した跡といわれています。この震災で、小原地区の女の子 2 人が南小学校から下校する途中、峰坂で行方不明になったといわれています。現在、峰坂を登った丸山のバス道路わきに、その供養塔が見られます。面積 13,000 平方メートル、周囲約 1,000 メートル、水深は平均 4m、深いところで 10m といわれています。



「喜叟寺」

渋沢駅から徒歩 20 分ほどにあるお寺です。早春には、参道にある梅が咲き誇り、古木が放つ花の香とその美しさが見事です。この寺には、室町時代中期頃の作で寄木造りの釈迦如来像があります。また、1874 年（明治 7 年）1 月から 1878 年（明治 11 年）まで渋沢村第 14 番小学渋沢学校が開かれ、渋沢・千村・栃窪の子供が通学していました。



「國榮稲荷神社」

境内には、1971 年（昭和 46 年）に秦野市の天然記念物に指定されたイチョウがあります。高さ 25m、幹回り約 4m もある大木で、樹齢は約 400 年余りと言われています。毎年、11 月末になると、境内はイチョウの落葉で、黄色のじゅうたんを敷きつめたようになります。

この稲荷神社は昔から養蚕農家の信仰が厚く、かつては 2 月の午（うま）の日に競馬の神事が行われ、賑わいを見せていたそうです。





**秦野市くらし安心部
市民自治振興課都市交流文化班**

電話番号：0463-82-5118（直通）

FAX：0463-82-6793